

## 福井一日巡検

長尾洋子

本巡検は、3年生の宿泊巡検に続けて行われたもので、参加者は2人。愛用の白いヘルメットを頭に載せた杉谷先生の運転する車で、武生→越前陶芸村→越前海岸→武生のコースを廻った。目的は、この地域の地域振興と断層海岸の見学である。

日本六大古窯のひとつ、越前焼発祥の地にあるのが越前陶芸村。シーズンはずれということもあってか、気持ちよく整備された観光スポットのわりには、閑散としている。私達は群衆とは無縁のこの村で、陶芸教室の楽しさを満喫した。教室といっても、手とり足とり教えてもらえるわけではない。ヘビースモーカー(?)の杉谷先生は、「火焰土器形灰皿」、ロマンチックな村田さんは白い花瓶、茶道部在籍の私は茶碗をつくり、悦に入っていた。隣接する茶苑で一服し、次に目指すは、栗農園。

栗農園は、ちょうどその日が解禁日だった。訪れてみると、その栗農園は実はシルバー人材活用も兼ねているようだった。慣れない手つきでお金を数えている従業員の方を見ていると、混む時はさぞかし大変だろうと余計な心配もしてしまうのだが、それが却ってほのぼのとした栗農園のイメージづくりに一役買っている。時期が早すぎて、収穫は微々たるものだったが、一足先に秋を感じた後は、越前海岸へ向かう。

山道を走っているつもりが、急に空が開けて、真青な日本海が見渡せた瞬間こそ、この巡検のハイライトといえよう。海岸へ下りる前に、ちょっと写真撮影。先生の白ヘルメットが、青い光に映

える。

越前海岸沿いの国道305号線をとぼしていると、それだけで気持ちがよい。この一帯は12月から2月末頃まで咲き乱れる水仙で有名だ。次回はぜひ水仙の季節に訪れたい。もうひとつ有名なのは、岩のトンネル「呼鳴門」である。風と波の侵食作用によって、岩がくり抜かれたもので、通りぬけるときに、その大きさを実感することができる。越前海岸は断層海岸で、国道の左手には切り立った断層崖がそびえ、右手にはすぐ海が広がっている。最後の宿泊巡検を締めくくするのに、ふさわしい地であった。杉谷先生に感謝。

長い長い越前海岸を走り抜けたあと、武生へ戻るのだが、再び山道に入ったら、車に酔ってしまった。記憶がさだかではない。

無事にレンタカーを返し、私たち3人の3泊4日プラス1日の巡検も、これでおしまい。報告もこれで終わりにしたいのが、ひとつ、つけ加えたいことがある。

やはり、少人数の巡検はgood!

4泊目の夜、ミーティングと称して、3人で先生の部屋で話しをしたのだが、それまでの3日間(3年生全員参加)のミーティングとは、雲泥の差だった。27人も学生がいるのと、たった2人とは、会話の密度も当然異なるし、人数の少ない方が質問もしやすい。1~3年生の宿泊巡検のやり方は、人数の面だけから考えても、もっと改善の余地があるのではないだろうか。

(9月4日 杉谷教官指導)